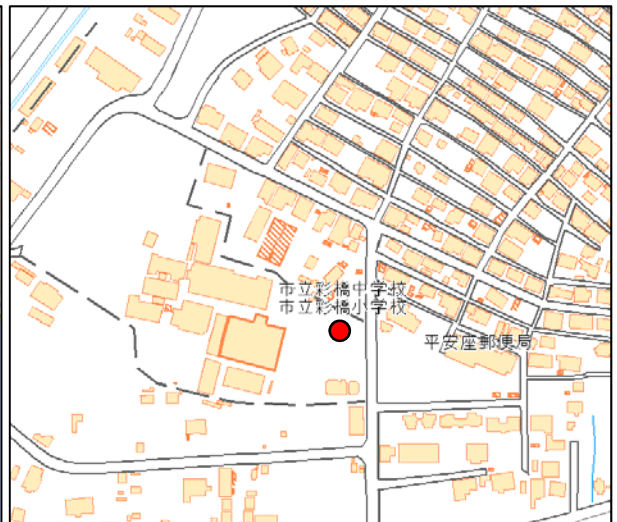


シヌグモのクワディーサー



認定番号 117

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|---|---------|-----------|---------|---|---|----------------------------|--|---|-------|---------|---------|
| 樹種名 | コバテイシ | 科名 | シクンシ科 | 方言名 | クワディーサー | 学名 | Terminalis catappa L. | | | | | | |
| 形状・寸法 | 樹高 10.6 m | 胸高周囲 | 3.3 m | 根本周囲 | 3.7 m | 樹幹占有面積 | 177.0 m ² | | | | | | |
| | 枝下高 2.9 m | 枝張 | 東 7.2 m | 西 7.1 m | 南 7.7 m | 北 7.3 m | 最大樹冠幅 15.0 m | | | | | | |
| 通称 | シヌグ毛のクワディーサー | | 樹齢 | 250 年(推定) | | 所有者 | 1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有 | | | | | | |
| 所在地 | うるま市与那城平安座8164-2 | | | | | 状況 | 1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他 | | | | | | |
| 立地場所 | 1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 | | | | | | 気象条件 | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 保護制度 | 1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし | | | | | (最寄りのア マスタータ) | | 平均気温(°C) | 16.4 | 17.9 | 19.5 | 19.8 | 22.9 |
| | 周囲の状況 | 1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 () | | | | | 地点:宮城島 | 降水量(mm) | 126 | 69.0 | 147.5 | 192.5 | 415.0 |
| 土地傾斜 | | 1 平坦((0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向: | | | | | | 2013年 | 平均風速 | 6.5 | 6.2 | 5.2 | 5.3 |
| | 土壌 | 1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 () | | | | | 風向 | | 月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
| 基岩・母材 | | | | | | | | 潮風の影響 | 平均気温(°C) | 28.5 | 29.2 | 27.9 | 24.8 |
| | 地形 | 1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他 | | | | | 日照条件 | | 降水量(mm) | 2.0 | 19.0 | 82.0 | 205.0 |
| 土性 | | 1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない | | | | | | 周辺樹木 の影響 | 平均風速 | 5.1 | 4.9 | 6.4 | 8.4 |
| | 根元及び周 囲の植生 | 草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし | | | | | 周辺根元 の状況 | | 風向 | SSW | ESE | SSW | ESE |
| 管理状況 | | 1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質 () 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他 | | | | | | 周辺樹木と の関係 | 年平均気温 | 22.6 °C | | 最高気温 | 25.0 °C |
| | 過去の治療歴 と内容 | 治療の痕跡は認められない。 | | | | | 年降水量 | | 1555.5 mm | | 最低気温 | 20.7 °C | |
| 故事来歴 | 1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明 | | | | | 1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記) | 1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良 | 1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある | 1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし | 1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている | | | |
| 視認性 | 1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由) | | | | | 1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数 生徒、父兄等) 4 その他 | | | | | | | |

地上部の衰退度判定（認定番号117）

| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
|--------------|---------------------|----------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 樹勢 | 旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない | 幾分影響を受けているが、あまり目立たない | 異常が明らかに認められる | 生育状況が極めて劣悪である | 殆ど枯死 |
| 2 樹形 | 自然樹形を保っている | 若干の乱れはあるが、自然樹形に近い | 自然樹形の崩壊がかなり進んでいる | 自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している | ほとんど完全に崩壊 |
| 3 枝の伸長量 | 正常 | 幾分少ないが、目立たない | 枝は短くなり、細い | 枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある | 下からの萌芽枝のみ僅かに生長 |
| 4 梢や上枝の先端の枯損 | なし | 少しあるが目立たない | かなり多い | 著しく多い | 梢端がない |
| 5 下枝の先端の枯損 | なし | 少しあるが目立たない | かなり多い、切断が目立つ | 著しく多い、大きな切断がある | ほとんど健全な枝端がない |
| 6 大枝・幹の損傷 | なし | 少しあるが回復している | かなり目立つ | 著しく目立つ大きく切断されている | 大枝・幹の上半分がかけている |
| 7 枝葉の密度 | 枝と葉の密度のバランスが取れている | 0に比べてやや劣る | やや疎 | 枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎 | ほとんど枝葉がない |
| 8 葉の大きさ | 葉が全て十分な大きさ | 所々に小さい葉がある | 完全にやや小さい | 全体に著しく小さい | 僅かな葉しかなく、それも小さい |
| 9 樹皮の傷 | 傷はほとんどなし | 穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない | 古傷がある | 傷からの腐朽が著しい | 大きな空洞、剥がれがある |
| 10 樹皮の新陳代謝 | 樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発 | 普通 | 樹皮に活力がない | 著しく活力がない | 樹皮の大部分が枯死 |
| 11 胴吹き・ひこばえ | 枝は量が多く胴吹きひこばえもない | 枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある | 枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある | 枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い | 枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない |

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.18

衰退度判定基準

| 衰退度区分 | I | II | III | IV | V |
|-------|---|------------|-------------------|-----------------|--------------------|
| | | 0.8未満 良 | 0.8~1.6未満 やや不良 | 1.6~2.4未満 不良 | 2.4~3.2未満 著しく不良 |

倒木・枝折れ等危険度判定

| 項目 | 判定 | | | |
|---------------|----|-------|-------|--------|
| | 安全 | 可能性あり | 可能性高い | 明らかに危険 |
| 通行者・建物等との位置関係 | ○ | | | |
| 根返り | ○ | | | |
| 幹折れ | ○ | | | |
| 大枝折れ | | ○ | | |
| 中・小枝落下 | | ○ | | |
| 幹の傾斜の増大 | ○ | | | |
| その他() | | | | |

土壌硬度調査結果（認定番号 117 シヌグモのクワディーサー）

| 測定位置 | 植え枒内 | |
|--------|--------|-------------------|
| | 表層土壌硬度 | 植栽基盤としての判定(硬さの表現) |
| 認定木の東側 | 22.0 | 堅い |
| 認定木の北側 | 19.0 | 締まった |
| 認定木の西側 | 20.0 | 締まった |
| 認定木の南側 | 19.0 | 締まった |

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28.12.16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

| 山中式土壌硬度計の硬度 | 長谷川式軟らか度 | 植栽基盤としての判定 | |
|-------------|---------------|----------------------------|-------|
| | | 根の侵入の可否 | 硬さの表現 |
| 指標硬度 | S 値 (cm/drop) | | |
| 27.0 以上 | 0.7 以下 | 多くの根が侵入困難 | 固結 |
| ~24.0 | 0.7~1.0 | 根系発達に阻害有り | 堅い |
| ~20.0 | 1.0~1.5 | 根系発達に阻害樹種有り | 締まった |
| ~11.0 | 1.5~4.0 | 根系発達に阻害無し | 軟らかい |
| 11.0 以下 | 4.0 より大 | 根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり | 膨潤過ぎ |

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き (Ver.5.3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

シヌグモのクワディーサー

| 部位 | 所見 | 対応 |
|----|---|--|
| 土壌 | ・表層は踏圧による固結が少し見られる。 | ・植え柵内への立入制限を検討する。 ・エアレーションの実施を検討する。 |
| 根 | ・踏圧と草刈り機による露出根の傷が見られる。 | ・露出根の保護を検討する。 ・植え柵内への立入制限を検討する。 |
| 幹 | ・高さ約 2.5m の枝の分岐部に開口空洞が見られ、幹の内部は地表から高さ約 3m まで中空となっている。空洞内面にはキノコが見られる。空洞の底には空き缶などゴミが投げ込まれている。 | ・空洞内を清潔に保つためゴミの投げ入れ禁止を検討する。 ・草刈り等の管理以外は植え柵内への立入禁止を検討する。 |
| | ・高さ約 3m の位置から不定根が発生し、空洞内部を通り地表まで達している。直径約 20 cm 程度に成長している。 | ・不定根の育成を検討する。 |
| 枝 | ・整枝剪定が行われた痕跡が見られる。概ね適切な位置で剪定が行われている。 | ・今後剪定傷には表面殺菌剤を塗布するよう検討する。 ・今後、枝の伸長に伴い枝の付根への荷重が増し、大枝の根本が折れることが考えられる。枝付根への荷重軽減のため適宜剪定を検討する。 |
| | ・枝折れ後、切り戻し剪定がされず放置された痕跡が見られる。 | ・枝折れ部は切り戻し剪定、および表面殺菌剤の塗布を検討する。 |
| 葉 | ・着葉量は多い。 | ・無し |
| | ・モモタマナコブガの食害が少し見られる。 | ・無し。 |
| 備考 | <p>・植え柵内への立入禁止、幹の内部空洞へのゴミの投げ込みの禁止、定期的な健全度診断の実施、必要に応じて土壌改良の実施など樹勢を保つために望ましいと考える。</p> <p>・樹勢を高く保つと枝の伸長量の増加、及び枝付根への荷重の増加が考えられる。枝付根への荷重軽減のため適宜剪定管理を行うことも重要と考える。</p> <p>・台風時には枝折れ等の注意喚起を行い近づかないようにすることも必要と考える。</p> | |

